

日本經濟試題

(限用答案本作答)

※注意：

1. 合計 100 点。回答は横書きにすること。
2. 問題の番号を正しく書いてから、回答すること。
3. 中国語または日本語による回答が可能である。
4. 一の「専門用語」は 30 文字以内、二の「設問」は 300 文字以内で回答すること。

一、「専門用語」：次の専門用語を簡潔に説明せよ。(4%×10=40%)

- |              |           |
|--------------|-----------|
| 1、WTO        | 6、市場メカニズム |
| 2、実質 GDP     | 7、護送船団方式  |
| 3、所得倍增計画     | 8、かんぱん方式  |
| 4、直接投資 (FDI) | 9、輸入代替政策  |
| 5、外貨準備       | 10、BRICs  |

二、「設問」：次の 6 問から 5 問を選んで詳しく回答せよ。(12%×5=60%)

- 1、日本經濟は 2002 年初から景氣回復を続けており、その長さは 4 年になろうとしている。2006 年も実質經濟成長率 2% 以上と IMF や OECD などの主な国際機関に予測されている。日本の景氣回復が続くなか、景氣の押し上げ要因として、いくつかあると見られるが、説明してみてください。
- 2、エネルギー、特に原油價格の高騰が日本經濟にどのように影響をもたらすのか、また、なぜ石油製品等の川上にある原材料價格の上昇は川下の消費者物価に反映されない（價格転嫁が進展していない）のか、教えてください。
- 3、日本の商社、とくに総合商社が「日本經濟における重要性」、「戦後日本の經濟發展に果たした役割」、「商社の未来」の 3 者から 1 つ取り上げて論じてください(全体について論じても良い)。
- 4、アメリカと中国は、それぞれ消費と生産の 2 両大国であり、これから世界經濟の行き先を見通すうえで、非常に重要な地位を占めている。このアメリカと中国も、日本にとっては、2 大貿易国である。今日、日本とそれぞれの貿易関係や貿易構造、ないし貿易摩擦の現状はどうなっているのか、述べてください。
- 5、戦後日本の産業政策は、その經濟發展にしたがっていくつかの時期に分けられるが、その推移及び各時期に置かれる重点について説明してください。
- 6、台湾と日本の經濟動向、例えば貿易、投資や産業面における技術提携の現状について、1 つの産業の例を挙げて分析・説明する、或いは台日の經濟交流全般について概説してください。

試題完